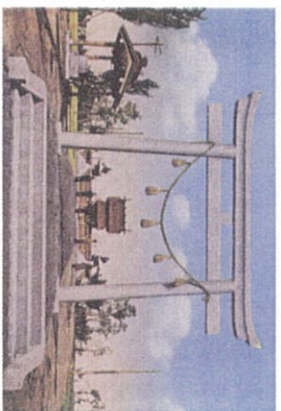


新京忠霊塔 (旧滿洲 絵葉書)



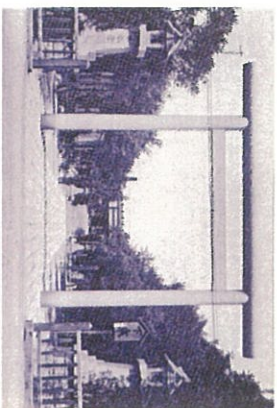
錦州神社(旧滿洲 絵葉書)



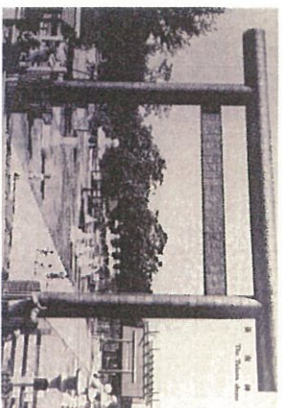
上海神社(旧中華民国 絵葉書)

4. 侵略の爪牙、侵略神社
 日本はアジア各地を侵略しながら、現地に多くの神社を建立した。19世紀末、日本人居留民のために次々に建てられた神社は、日本が植民地支配を始めた後、植民地支配人民に対しても、天皇への忠誠心を育む道具として活用された。海外につくられた侵略神社は、皇民化教育と八紘一宇の思想を宣伝する場として活用された。

日本がアジアを侵略する過程で海外に建てられた侵略神社は、1,000社を超えたとされているが、日本の敗戦によって、神社そのものが焼かれたり、資料が焼却されてしまったため、ほとんど知られていない。1940年代、日本敗戦直前の資料によると、侵略神社が朝鮮79社、台湾65社(1942年現在、その構成は、官幣大社・県社・護国神社・郷社・祠)、サハリン127社(1941年8月現在、官幣社・県社・無格社)、満洲295社(1944年現在)の侵略神社があったという。社格の低い神祠まで合わせると、朝鮮だけでも1,144社以上を数える。



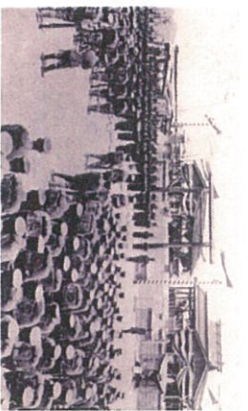
天津神社(旧中華民国 絵葉書)



台南神社(旧台湾 絵葉書)



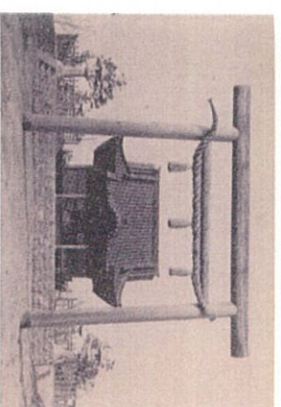
哈爾濱(ハルビン)神社(旧滿洲 絵葉書)



旅順戦蹟、白玉山納骨神社祭日陸海軍参拝 (旧関東州 絵葉書)



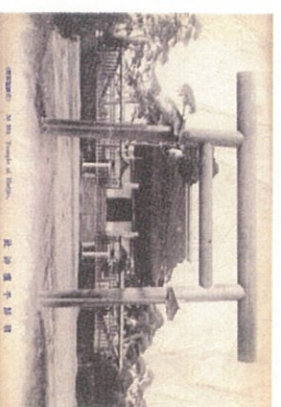
彩乃(サライノ)神社(旧南洋諸島 絵葉書)



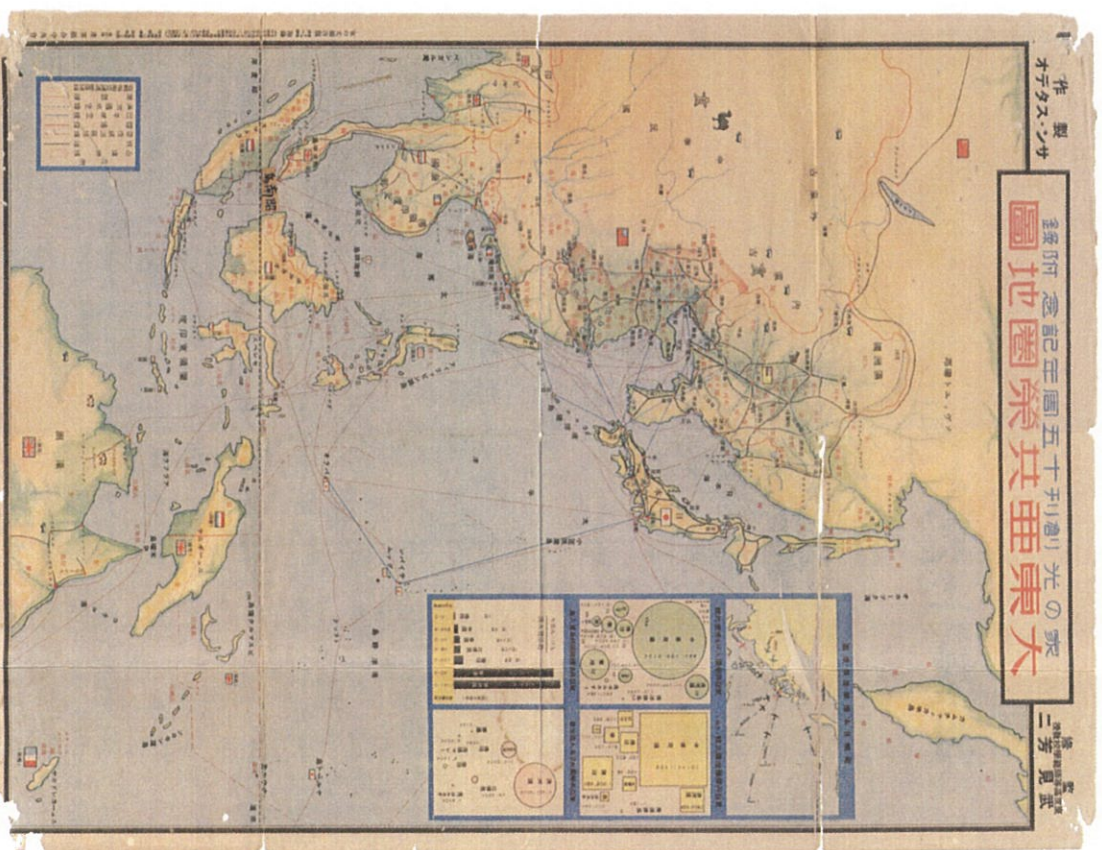
暹羅神社(朝鮮 絵葉書)



咸興神社(朝鮮 絵葉書)



平壤神社(朝鮮 絵葉書)



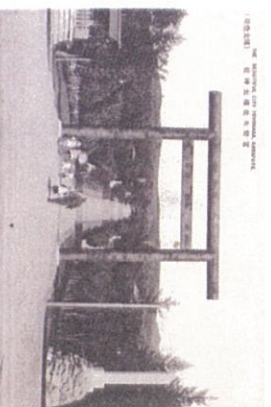
大東亜共栄圏地図、1940年
 日本は「侵略戦争を「大東亜共栄」という幻想で宣伝した。



鎮海神社(朝鮮 絵葉書)



ハノイ出雲神社(ハノイ 絵葉書)



垂水神社(サライノ 絵葉書)